

第4次特別支援教育推進計画の取組状況等に関する学校アンケート(記述)

(別紙)

「取組 1 通常の学級における特別支援教育の充実」について、回答いただいた中で、成果のあった取組や課題がある取組については、その具体を記載してください。(記述入力)

【成果のあった取組】

担任一人で対応するのではなく、学年・学校組織（校内委員会など）での対応を意識して取り組み、成果を得た。

特別支援学級と通常の学級との交流により、特別支援学級についての理解を深めた。

特別支援教室へ通う児童の理解教育

幼稚園・保育園の入学前の学校訪問（生活科）を行うことで園児の入学前の不安を取り除くことができた。入学前の聞き取りを一人一人に行うことにより配慮を要する園児を把握し、学級編制等に活用することができた。

異校種や関係機関と連携を強化することにより、円滑な引継ぎを行うことができた。

担任、通級、SC、支援員で情報共有するノートや話合いの時間を設定した。

1週に1回振り返りの時間をとる。巡回教員との連携の時間を確保する。

校内研究で取り上げることにより、支援の方法・工夫を校内で共有できた。

特別支援学校との年間を通しての継続的な交流

特別支援学級担任による理解教育を全クラスで実施した。通常の学級の児童の意識向上が見られ、思いやりの行動に表れた。

交流・共同学習を積極的に行うことにより、児童理解が全体ですすみ、学年や学校で、個別最適な対応をすることができた。

特定学校との全学年直接交流、インクルーシブ運動会

副籍交流を学期に1回行った。

保幼小連携会議を年2回開催した。4月には卒園後の1年生の様子を参観してもらい、ご意見をいただいた。

ユニバーサルデザインを意識した教室環境の整備

今年度、近隣の保育園や幼稚園の交流会数を増やした。次年度に入学する児童の様子が分かり、小学校へ入る垣根も低くなった。

連携型個別指導計画を作成することで、よりひばり教室との連携が図れた。

レベル1，2の児童に対し、学校生活支援シートを必ず作成することで、保護者と支援方法を共有できた。

特別支援教室による出前授業やSST授業の推進等

定期考査等の合理的配慮について、保護者と丁寧な面談を行い合意形成を図るとともに、UDフォントやタブレットの使用、時間延長等、校内でできる支援について共通理解を図って実践している。

講師を招聘しての授業観察や講演

特別支援教室の連携を深め、保護者面談に同席してもらったりクラスで困っていることについて手立てを考えたりしたことで、具体的なサポートをすることにつながった。

小学校時代の取組を具体的に聞き、積み残しを確実なものとする指導を継続した。

具体的なコミュニケーションの形について、教師が主導で生徒に示したものをやらせるのではなく、トラブルの都度、どのような形が望ましいのかを生徒と一緒に考えて、生徒が導き出した答えをサポートするという指導を、共通理解を図りながら組織的に行った。

【取組をすすめる上での課題】

特別支援教室をサポートルームに活用しているので環境整備に課題がある。

読み書きに困難さがある児童への組織的な対応

環境的に、別室指導が望ましい場合に、人的な不足により、別室指導が行えなかった。

「取組 2 知的障害特別支援学級における指導の充実」について、回答いただいた中で、成果のあった取組や課題がある取組については、その具体を記載してください。(記述入力)

【成果のあった取組】

行事を通して、特別支援学級と通常の学級との交流を深めた。

幼保中との情報共有を密に行うことで、進学における児童・保護者の環境の変化等のストレスを減らすことができた。

医療機関や市の福祉部門と連携することができ、支援の方法や体制が充実した。

個別の教育支援計画、個別指導計画に基づいて、保護者や支援員とも共有しながら指導に取り組んだ。

プログラミング学習におけるドローン体験を通して、生徒が主体的に考え、意見を交換し、試行錯誤を繰り返す中で、粘り強く考え、問題を解決しようとする姿が見られた。

通常の学級との交流及び共同学習を継続的に行之、成果が見られた。

【取組をすすめる上での課題】

さらに個に応じた指導・支援を充実させる必要がある。

「取組 3 特別支援教室における指導の充実」について、回答いただいた中で、成果のあった取組や課題がある取組については、その具体を記載してください。(記述入力)

【成果のあった取組】

校内委員会において、課題のある児童についての情報共有を図ることができた。

学期始めに、特別支援教室の教員と管理職で面談を行い、長期休業期間中の保護者との面談内容について情報を共有した。

巡回指導の教員との児童に関する連携が図れた。

連携型個別指導計画を活用した指導計画の作成。指導記録を通じた児童の共有と指導改善

在籍学級担任と巡回指導教員が日頃から密に情報共有し、児童の課題や成長について意見交換できている。そのため、実際の指導場面で生かすことができている。

連携型指導計画の導入

就学前の引継ぎを、幼稚園・保育園だけでなく、療育施設等の外部とも連携して情報共有をしてスタートすることができ、適切な指導ができた。

個別指導計画が連携型になり、在籍学級担任と目標の共有やそれに向けての連携が以前よりできるようになった。

巡回指導教員と在籍学級担任との連携を密にして、共通理解の下で指導に当たれた。

在籍学級担任等と巡回指導教員との連携が充実していたため、きめ細やかな指導につながった。

学校生活支援シートの共通理解や情報交換の機会を設定した。

校内委員会へ巡回教員が参加し、きめ細やかな情報共有ができた

定期的な校内委員会の議事録を作成し、全教職員で共有した。

個別指導で生徒が漏らした人間関係についての不安を巡回指導教員が把握し、迅速に学年教員で共有し、相談・対応に当たることができた。

【取組をすすめる上での課題】

ひばり教室入室に関して、12月末に申請が終了してしまうため、次の入級（2学期）まで期間があいてしまう。

巡回校での担任の先生方との連絡や連携に課題があると感じる。時間等が合わず、会えない場合は、様子等をPC等に入力して見ていただいたりするなど、ICTの活用も含めて情報の伝達がなされる方法を模索していきたい。

特別支援教室ガイドラインは、年度当初に共有したが、定期的に確認する必要がある。

担当教諭間の情報共有の徹底

校内委員会への巡回指導教員の参加

特別支援教室ガイドラインを全教職員が理解すること。

年度の途中で通室児童数が大幅に増えるため、在籍学級での行動観察を継続的に実施していく体制を整えることが困難となる。学級担任との効果的な情報共有の在り方を検討することが課題となる。

「取組 4 通級指導学級（難聴・言語障害）における指導の充実」について、 回答いただいた中で、成果のあった取組や課題がある取組については、その具体を記載してください。（記述入力）

【成果のあった取組】  
合理的配慮支援員と連携し、支援に当たった。  
吃音について全校児童に理解啓発をした事例（資料を含む）を校長連絡会を通じて市内全校に発信した。

【取組をすすめる上での課題】  
幼保や中学との情報の引き継ぎについては不十分であった。

「取組 5 特別支援教育に関する専門性の向上」について、回答いただいた中で、成果のあった取組や課題がある取組については、その具体を記載してください。（記述入力）

【成果のあった取組】  
小児科医や大学教授を招き、全教員を対象とした研修を行ったことで個別に支援を必要とする児童の実態の理解と具体的な支援について研鑽することができた。  
  
特別支援教室担当職員との連携を図り、児童支援に生かした。  
特別支援学級教員対象の外部講師を招いての研修会を 2 回実施することができた。研修会には、通常の学級の教員も参加することができるようにし、低学年担当教員を中心に参加し、研鑽を深めることができた。  
筋ジストロフィー児童の支援に関する専門家を講師に招き、校内で管理職をはじめとする関係教員に講演を行っていただいた。  
教職員間で支援の方法を共有することで、支援方針のブレが生じない一貫した支援につながった。  
巡回心理士から年複数回にわたって課題のある児童の様子を客観的に見てもらい、アドバイスをもらうことができた。  
研修で講師をお願いした作業療法士が、講習会后に、本校の支援員として活動をはじめてくれた。  
特別支援学校の先生に、支援が必要な児童を見ていただき、指導方法や今後の見通し等について助言をいただいた。  
OJTや医師を招いた学習会を開催し、研修内容を共有することができた。  
特別支援学級の担任による校内OJT  
ひばり教室の教員が、ミニも含め、年に 3 回、校内研修を行った。  
関係機関との連携 病院の支援事業を活用し、心理士に授業観察をしてもらうことで適切な生徒支援をするための助言を得られた。  
研修会に参加し、内容や教材を全教職員にフィードバックするようにした。  
特別支援教室の保護者向け研修を行った。講師の話は教員にも聞かせたい内容であった。  
校内研修会の中で年度始めと年度終わりの2回、特別支援教育に関する内容について学びを深める機会を得られた。  
校内委員会の報告事項はできる限りデジタルで事前に共有し、個に応じた『策』を考え計画する時間に充てた。

【取組をすすめる上での課題】  
小児科医や大学教授を招き、全教員を対象とした研修などの取組を毎年継続していくことが課題である。  
養護教諭による研修を行ったが、巡回指導員や心理士などの先生からの研修を設定したい。  
研修を受講する時間の確保が難しい。

重層的な支援の充実に関して、回答いただいた中で、成果のあった取組や課題がある取組については、その具体を記載してください。（記述入力）

【成果のあった取組】  
巡回相談において担任の指導をどのようにすべきか指針をいただくことができ、児童の成長に成果が得られた。  
課題のある児童に対して、巡回相談を利用し児童への対応に生かした。  
関係機関と迅速に対応することで、支援体制をすぐに整えることができた。  
SSWに関わっていただき、直接家庭訪問をしていただいたり、連携をとっていただいたりした。その際の情報共有を校内委員会で行い、支援方針を行う中で、きめ細かく丁寧な支援体制を構築することができた。  
不登校児童へのSSWの活用、不登校児童や支援が必要な家庭への子供家庭教育センターや児童相談所と連携したアプローチ  
多くの関係機関から専門的な視点からのアドバイスを得ることで学校の役割の明確化や学校での支援の充実につながった。  
複数の児童について、関係諸機関と連携した対応をとっている。  
SSWの活用で、家庭環境を含めたサポートをしてもらっている。  
巡回相談の方から、保護者に分かりやすく説明をもらったことで、保護者の理解を深めることができた。  
進級にあたり、不安で不登校傾向になった児童が、SCやみらい、医療等と連携し、2学期より登校できるようになった。  
学校への巡回心理士の派遣とアドバイス  
今年度は、支援が必要な児童に対し、巡回相談、SSW、みらいや児相とも積極的に連携し、児童の成長をサポートできた。  
SSW、日本語指導支援員と連携し、保護者説明会、高校受験等のサポートを行った。  
SSWによる家庭訪問や学校での面談等の実施。  
校内委員会等で検討しながらスムーズに連携を図ることができた。SSWの役割等については、教員全員が理解を深めることで、保護者へのアプローチの一助になると感じている。  
就学相談やSSWの活用  
医療受診に同行したり、巡回相談に依頼したりしたことで通常の学級における支援の手立てを考え、実践することができた。  
専門的な知識を持った、指導主事による研修  
みらいやSSW、SCと連携し、重層的支援体制が必要である家庭に対応している。  
都や市の心理士が巡回する際に相談する内容を、特別支援委員会にて事前に整理し、そこでの具体的な助言を共有することができた。

【取組をすすめる上での課題】  
SSWの方と話せる機会を設定する必要がある。  
関係者会議のスムーズな実施

特別支援教育に関する情報発信に関して、回答いただいた中で、成果のあった取組や課題がある取組については、その具体を記載してください。（記述入力）

【成果のあった取組】  
夏の個人面談で「はばたき」のリーフレットや「ひばり」教室の案内、ことばの教室、仲よし学級要覧などを必要に応じて配布・説明して啓発活動を進めた。  
SCとの連携や特別支援教育についての理解を深めることができた。  
デイジー教科書の保護者への周知  
関係の資料やリーフレットを保護者に配布し、情報を提供することができた。  
保護者へのスマート連絡帳（メール）での情報配信を行った。

みらい、はばたきのHPからの資料を必ず渡し、連絡をとって、解決に向かった家庭があった。

「はばたき」のリーフレット配布

学校だよりや学年通信等を通じて特別支援教育の啓発に努めた。また、年度当初の保護者会では、特別支援学級の主任、巡回指導教員から特別支援教育に関する説明を全保護者に対して丁寧に行っている。

ホームページ等の活用をさらに図っていきたい。（内容の充実等）

学校ホームページや学校便りを活用した校内研修の取組の紹介

今後はホームページを活用して特別支援教育への保護者や地域の理解を啓発するようにしたい。

連絡の取りにくい家庭に対して、みらいと連携することができた。

【取組をすすめる上での課題】

コロナ対応により特別支援学級と通常の学級との交流が減ったため、コロナ以前までの取組を踏まえながら新たな工夫をし、具体的な交流と連動した理解啓発活動の充実を図ることが課題となる。

今後は新1年生の入学説明会で理解啓発活動を行うことを検討している。